

当院におけるプランメカシステムの活用法

How to use the system of PLANMECA in my clinic



日本臨床歯科CAD/CAM学会 北海道支部
五輪通り山口歯科 山口圭輔
Gorinstreet yamaguchidental Keisuke Yamaguchi

「目的」

現在多くの歯科分野においてデジタル化の流れが加速している。当院では、IOSやミリングマシンを導入しているが、3Dプリンターやファーンネスについては導入に至っておらず、院内にて製作可能な補綴物は限られている。そこで、院内で製作しないものについてはクラウドを活用したオープンシステムによりラボとの連携を図っている。今回、当院におけるラボサイドとの連携について報告する。

「設備及びソフトウェア」

院内製作物においては、IOSであるEmerald™(Planmeca)を使用。デザインソフトとミリングマシンはPlanmecaのPlanCAD® EasyとPlanMill® 30 Sを使用した。一方で、外注製作においては、Emerald™を使用しgooglecloud(google)を活用して、技工所とコミュニケーションをとった。技工所では、デザインソフトとミリングマシンはexocad(exocad)とinLab MC X5(Dentsply Sirona)を使用した。

「結果」

オープンシステムを利用し技工所と連携し補綴物を製作したが、当初はその完成度に満足できなかった。しかし、デジタル設備とクラウドを活用することで、より迅速にかつ正確に情報を共有することができ、満足できる精度の高い製作物の供給が可能となった。

「考察及び結論」

確立されているクローズドシステムとは違い、各社IOSデータとラボサイドのデザインソフトウェアとの整合性を保つには、お互いに情報の共有や結果のフィードバックが必須であると考えられる。デジタルでは各種数値(パラメーター)の補正で調整できる。技工所との間でクラウドを活用し情報を共有することは非常に有益であると考えられる。今後は院内設備のソフトウェアのアップデートや新たなシステムを積極的に取り入れることでさらなる医院の成長へ繋げたい。